

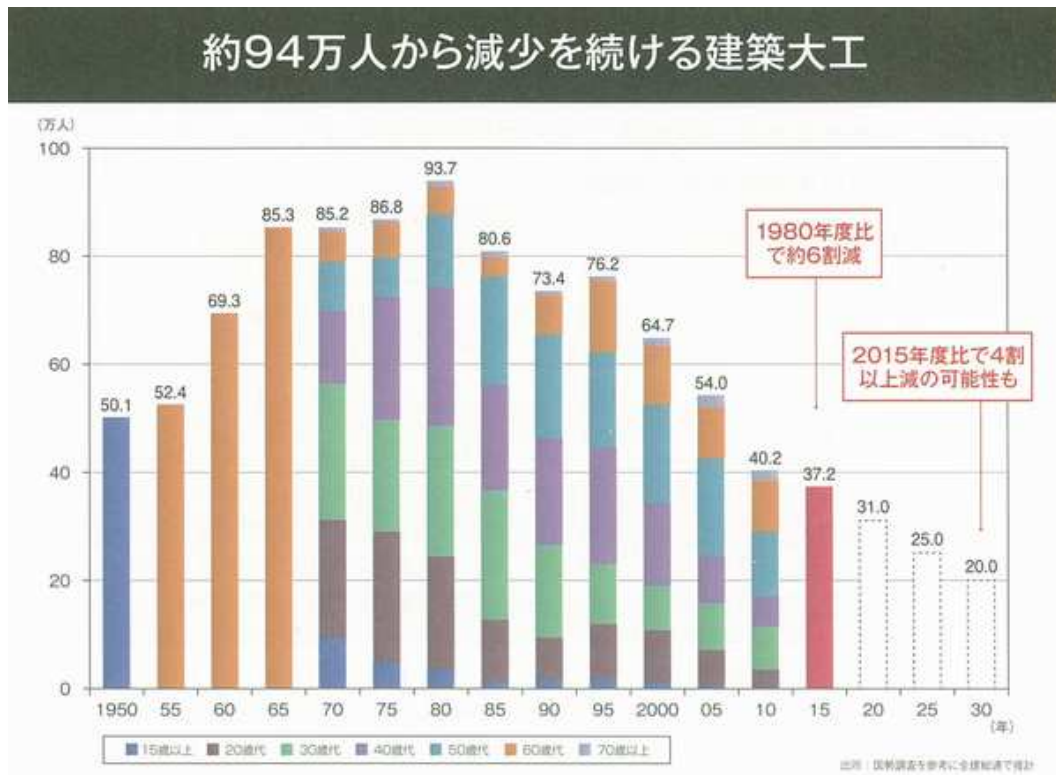
【 耳寄り情報 1 】

～ 減少を続ける建築大工 ～

受注しても大工の確保ができなければ・・・

建築大工の数のピークは1980年の93.7万人、その後減少に転じ2015年には37.2万人と約6割がいなくなつた。この原因の一つは建設・建築市場の縮小が上げられます。もう一つは高齢化が年々進んでリタイアに拍車がかかっていることです。現在10代の大工は2200人、20代は32000人程度しかいません。2020年には20%減って31万人、2030年には更に減って20万人と予測されています。

いち早く大工を社員化する方向に動いている工務店もありますが、大工仕事の魅力をPRL採用の窓口まで来てもらうことの難しさ、採用後の教育を誰にどうやってしてもらうかが課題として残っています。また外注なら仕事のない間、経費は発生しませんが社員大工は常時経費(給与等)が発生します。コンスタントに仕事が確保できなければその分負担が増えます。数少ない大工でいかに効率よく仕事を進められるかが問われてきています。加工した造作材や建具枠の採用はその一助となります。これだけでも大工工数75人の8%程度は減り、工事ははかどります。



資料：住宅産業大予測 2018